



かどや通信

第48号

発行日：令和4年1月吉日

発行行：かどや保存会

発行責任者：寺田 直喜／編集：廣野 克子

お陰様で！ 入館者五万人！突破！！

鳥羽大庄屋かどやの入館者が十二月十八日に五万人を突破した。

記念すべき五万人目のお客様は、中西秀一さんの水彩画展を見に松阪市から来られた一人連れ。友人から「ぜひ見に行くように」と勧められて来たのだが、これまでかどやの存在を知らなかったため、道に迷つてようやくたどり着いたのだそうだ。

かどやに足を踏み入れるやいなや「ようこそ、かどやへー入館五万人目です」との声がかかり、驚きと同時に道に迷っていた不安な気分が一瞬にして吹き飛んだそうだ。

早速、かどや保存会の寺田会長から記念品として、かどやの絵葉書七



ツトや鳥羽銘菓のシエルレーヌ、十一月になかまちに開店したばかりのチヨロート工房アトリエ・アンジエの生子ヨロートセット、かどやでも販売中の襷(みそぎ)塩(神島沖で汲み上げた海水で作った純度の高い天然塩)等が贈られた。

お客様からは「私も水彩画を習っていますので、楽しみにしてきましたのですが、五万人目になるなんて、とてもうれしいです」とこやかに話してくれました。

寺田会長は「かどやは単なる観光施設としてだけでなく、人と情報交流の場として、茶道や裁縫、小唄やオカリナ等の教室も充実してきており、多くの方々にご利用いただけた結果です。コロナ禍ですでに感じた結果です。コロナ禍ですでに染対策をしつつ、今後とも一人でも多くの方に楽しんでいただけるよう頑張ります」と話す。

かどやは、平成二十五年(2013)五月一日から一般公開がはじまり、入館者一万人目は平成二十七年五月二日に達成。二万人目は平成二十八年十一月五日、三万人目は平成三十年三月二十六日、四万人目は令和元年(2019)九月二十九日に達成した。順調にいけば、令和三年の上半期には五万人を数えるところだったが、

令和二年二月にダイヤモンド・プリンセス号で新型「コロナウイルス」の感染が確認されて以来、観光客は減少した。さらに緊急事態宣言等により、令和二年には三月二日～三月三十一日と四月十一日～五月三十一日、令和三年には五月二十四日～五月三十一日と八月二十七日～九月三十日を臨時休館としたため、五万人達成は当初の予測より大幅に遅れることになった。

それでも緊急事態宣言明けの昨年十月からは観光客が増え始め、十一月上旬から五万人目のカウントダウンを始めた。達成は年を越すものと思っていたが、十一月の展示が非常に好評で、かつ出展者の中西さんの交友関係も幅広かったのが功を奏し、入館者は日を追うことに増え、あれよあれよという間に「明日には五万人を超える」となり、スタッフは大慌てで記念品を準備した。

スタッフ達は、五万人目のお客様を見送ってから「まだまだ「コロナ禍」でお客様をお迎えするのも緊張が伴いますが、一人でも多くの方々にかどやで楽しんでいただけるよう、「ツツ」と頑張りましたよー」と誓い合っ

水彩画でヨーロッパ旅気分

十二月一日から二十一日まで、「街・路」と題した中西秀一さんの水彩画展が行われた。

中西さんは名古屋市長在任だが、生まれは松阪市で、高校は伊勢高校に通っていた。学生時代は画家になりたかったが、大学卒業後は一級建築士として活躍。約一年半前に第一線を退いたことから、本格的に水彩画を始めた。

今回は、仕事や観光で訪れたイタリア、スペイン、フランス等の街角や田園風景を描いた二十六点が展示された。



どれも水彩画のやわらかで優しいタッチが特徴で、絵本に出てくるような風景が描かれていた。見ていると心が



和むような作品ばかりで、ヨーロッパの街角をゆったりと散策しているような旅気分を味わえる秀

作が並んだ。見学者は「絵本を見ているみたい」「何時間でもみていたい」と絶賛していた。

中西さんは高校までは三重県で過ごし友人も多いので、作品の搬入・搬出には中学時代の仲間が手伝いに来てくれた。また展示期間中は、かどやから徒歩十分のところに合同会社なかまちが空き家対策の新規事業として取り組んでいるレンタルハウスに滞在し、毎日かどやに出勤してくれた。伊勢高時代の仲間や後輩たちも大勢見学に来てくれて、夜はプチ同窓会が開かれ、遠方からの友人は同ハウスに宿泊することもあり、交友を深めていた。また仕事上のお客様も名古屋から駆けつけてくれるなど、かどやの入館者五万人達成にも大いに貢献してくれた。

みやびな王朝文化を再現！ 紹刺し教室作品展

新年一月八日から二十四日まで、紹刺し作家・西川佐恵子さんが講師を務める「紹刺し教室作品展」が開催された。

伊勢市長在任の西川さんは、令和元年(2019)七月にかどやで個展を開き、同年九月から教室を開講した。今回は伊勢御園教室の生徒さんも含め九名が出演。日本古来の縁起の良い模様のタペストリーをはじめ、バッグやボールペン、帯締め等に縫い込まれた約三十点が披露された。講師の西川さんの作品は約百点。めでたい亀甲柄のタペストリーや縁起のよい鶴、あでやかな色使いの紙風船や宝尽くしを帯に縫い付けたものもあり、お正月にふさわしい華やかで気品ある力作が並んだ。

紹刺しは非常に細かい作業の連続で、教室では

約二時間で幅二センチ長さ八センチ位しか進まない。だが、約二十



五年前に紹刺しに魅了された西川さんは、「場所をとらないうつらがない、うしろでもできるのが魅力」と語り、かどやでスタンバイしている時も、見学者がいなくとも「ツツ」と針を刺していた。見学に来られた方々は、「すごいですね」と感嘆し、ただただ作品に見入っていた。

紹刺しとは

夏の和服地から派生した紹刺し専用の布の織り目に、特別な糸を刺して模様を表す技法である。

木枠に張った白い絹に、様々な色の絹糸や金糸、うしろ糸等を使う。古典的で優雅な図柄や日本古来の伝統的な模様は、帯や小物入れ、袋物等の表地に用いられている。

日本における正確な期限は不明だが、奈良時代には東大寺の仏像の敷物として献上された記録が残っている。平安時代には貴族の間で雅な刺繍として広まり、江戸時代には公卿たちの趣味として珍重された。

明治以降、大正、昭和と年々隆盛になり上流階級の婦人の間で趣味の手芸として普及したが、今日では限られた職人の間でのみ技術が継承されている。

金胎寺で秘宝続々!

第八十二回かどや塾「金胎寺の秘宝展」が一月十六日に開催された。

金胎寺は江戸時代に鳥羽藩主の祈願寺として栄えたが、本堂は一八九五年に火事で焼失。庫裡（台所や居住する場所）は火災を免れたものの痛みが激しいため、一昨年末から長谷住職と郷土史家の江崎さんが整理し始めたところ、貴重な品々が続々と発見され始めた。

今回は、江戸中期から幕末まで鳥

稲垣家の家紋入り袷



羽の藩主を務めた稲垣家の家紋（抱き苜蓿）入りの袷染をはじめ、銅鏡六点、真言密教に関する掛け

軸二本、竹筒等に加えて非常に特殊な曼荼羅図も展示し、江崎さんがそれらの価値や背景を解説。また、同寺の成り立ち等も詳しく説明し、歴史好きの参加者たちは、熱心に耳を傾けた。



当時の銅鏡に感激

日本文化に触れたくて 手芸倶楽部で国際交流

かどや手芸倶楽部に十一月からフランス人のカゾ・ポーリンさんが参加し、プチ国際交流が行われている。ポーリンさんは、十月十一日に鳥羽市の国際交流員に就任したばかり。観光課に席を置き、鳥羽の観光スポットをSNS等で情報発信したり、パンフレットの翻訳や異文化交流活動にも積極的に取り組んでいる。

そんなポーリンさんが吊るし飾りを作っている同倶楽部に興味を持ったのは、日本の伝統文化に触れたかったことと、地元の人たちとの触れ合いを増やしたかったから。

講師の大屋さんは明るく面倒見がよいが、方言を早口でまくし立てるので、話が理解できるのか心配だったが、フランス語に加えて、日本語、英語、ポルトガル語も堪能なポーリンさんは「大丈夫、だいたい分かる」と言い、十一月以降も毎月参加している。一月には同倶楽部のメンバーがスマホの翻訳機能を準備したので、会話も一段と弾むようになった。



の方々と一緒に手芸ができるのは、とても楽しい」と話している。

なかまちの夜がキラキラ! クリスマス・イルミネーション

鳥羽三丁目〜四丁目界隈にかつての賑わいを取り戻そうと、同地の商店主等を中心に結成された鳥羽なかまち会(代表:坂田さやかさん)は、十一月のなかまちをクリスマス・イルミネーションで輝かせようと計画。四丁目のOさん宅をはじめ、かどや、おにぎりカフェ・うさぎのしっぽ、クボクリ等に、キラキラのイルミネーションが設置された。かどやは玄関のある北側の面いっぱいに、青、赤、緑などの電飾やサンタさんと



トナカイ、サンタの赤い服や帽子をかぶった、ペンギンや猿等が飾られた。午後五時から九時まで毎晩点灯されたイルミネーションは、なかまちの暗い夜道を明るく照らした。

これらのイルミネーションは全て四丁目のOさんから借りたもので、前回までは長年Oさん宅で飾られていたが、なかまちが賑やかになればと、提供してくれた。

飾りつけは寒風吹きすさぶ十一月八日に、地域おこし協力隊の若者をはじめ、なかまち会の若者が中心となり、Oさんの指導の下で行われた。特に、多数の電飾の接続は非常に難しかったが、Oさんの適切な指示のおかげで、約半日がかりで完成した力作だ。点灯はかどやが行い、消灯は松井酒店さんが担当してくれたが、消し忘れ防止のため、かどやのイルミネーションが一階から見下ろせる家の3ネさんが監視役となった。

明るいイルミネーションは、なかまち会の協業に支えられていた。



門松で新年祝う!!



かどやでは毎年、手作り門松を飾って年神様をお迎えしている。

今回も年の瀬の十二月二十五日にフミタカさんが真新しい竹を携えて来て

くれた。朝の掃除中だったの
で、ボラン
ティアス
タッフの
佳代さん
も加わり門松の飾りつけを行った。



大掃除でピッカピカ!

門松の設置に先立つ十二月二十一日には休館日を利用してスタッフとスタッフOGも加わり九人で大掃除を行った。今回も女性陣は館内組と庭組に分かれ、館内組は、ガラ



又拭きや畳の雑巾がけも行い、普段は見落としがちな場所

も限なくピッカピカにした。一方、庭組はひたすら草抜きに専念した。毎回大掃除にはユウジさんがバ

スーカ砲のような庭専用の掃除機を使い、イチヨウ等の落ち葉を吸い

取ってくれるが、今秋はこまめにバズ

ーカ砲で掃除お目立った落葉はな

かったため、今回はなんと高圧洗浄機

なるものを借りてきて、庭の石畳の汚れを洗い流して

くれた。

昼食後にはスタッフ会議も行われた。一月三十日

に予定している文化財の火災予

防訓練に先立ち、ユウジさんの指

揮のもと、館内に設置された消火

器や非常ベル等の場所確認も行った。



ユウジさんが消火器の使い方を伝授

◆◆貸部屋の案内◆◆

かどやを有効に活用していただくため、一部の部屋を貸部屋として貸し出しています。茶話会や勉強会、展示会などに活用ください。

詳細は、かどやへ。

電話〇五九九二五八六八六

時間区分 部屋	午前	午後	全日	冷暖房設備 利用料
	10時~12時	13時~16時	10時~16時	
座敷南(10畳)	500円	600円	1,100円	500円
座敷北(8畳)	400円	500円	900円	—
仏間(6畳)	300円	400円	700円	—

- ・営利目的の場合は、料金表の10割増しとなります。
- ・鳥羽市民または市内勤務者以外の利用は、料金表の5割増しとなります。
- ・許可された利用時間を超過する場合は、割増料金が発生します。
- ・冷暖房費は、全日使用の場合は2倍になります。

かどや保存会 令和3年度会員募集中!

かどや保存会は、歴史的な文化財である「鳥羽大庄屋かどや」の保存ならびに効果的な活用・運営をめざして活動を続けており、当会を支援して下さる会員を募集しています。

平成30年度は会員数が351名に達しましたが、残念ながら以後毎年減少しております。しかし、コロナ禍にも関わらず、令和3年度は12月末現在で267名の方から新規や継続のお申込みをいただきました。皆様からのご支援を心より感謝いたします。コロナの収束にはまだ時間がかかるものと思われそうですが、感染防止対策を強化しつつ、皆様の憩いの場所となるよう、これからも日々努力を重ねてまいります。手続きがまだの方も引き続きご支援いただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

令和3年度(令和3年4月1日~令和4年3月31日)の年会費(1口2,000円)は、継続・新規を問わず、以下の方法で納入してください。令和4年度分は、4月から受付させていただきます。

(1)手渡し: かどやにお越しいただき、直接事務局にお支払いいただく。

(2)銀行振込: 郵便局 当座 かどや保存会 00850-4-151751